

目的；布の剛軟性は力学的変形的基本的性質であり、特に布の複合状態における剛軟性は、表地と裏地の組み合わせなどの被服構成の面あるいは着用中に受ける布の変形挙動を考へるうえで重要な性質である。二層接着布の曲げ特性の理論的取扱いについては内山¹⁾、丹羽²⁾らの報告がある。これらの報告を検討しながら、本研究では重ね合わせ状態および接着状態における曲げ剛性が、1枚の個々の布の曲げ特性関係、方向性によつてどのように影響を受けるかを考察し、個々の布の曲げ特性をもとに複合状態の布の剛軟度を推定する方法を求めようとするものである。

方法；試料としてA：羊毛、綿2種、B：不織布3種を用い、それぞれA、B間で方向性の組み合わせにより単純積層A+B、アイロンプレスによる接着A・Bの二層複合布として、45カンチレバー法、KES-FB2純曲げ試験機により曲げ剛性を測定し、また交差系の接触圧に関係するパラメーターとして曲げ摩擦項（ヒステリシス幅）を測定した。

結果；①A+B積層の曲げ剛性Gは、A、B間個々の大小の組み合わせ方により異なる。②A・B接着の曲げ剛性Gは、はり合わせ理論式から補正係数を付加することにより示される。③複合布の曲げ剛性と摩擦項の間には、相関々係があるが、その程度は積層法、布タイプにより異なる。

文献 1)加来・内山；繊維誌 23 T178 (1970)

2)金山・丹羽；繊維消学会 昭55年年次大会要旨集 P14 (1980)